

2023年度 自己評価報告書

星稜高等学校

具体的取り組み	評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
教務課			
時間割変更をミスなく行い、生徒に確実に授業を提供する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	できる限り振替をし、授業時間の確保に最大限努力した。ただし、振替のミス、ホワイトボードへの転記ミスについては多少あったので、慎重に行っていきたい。
ミスが起こらない環境づくり、システム運用を行う。また、情報共有を確実にを行い仕事の無駄をなくす。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	マニュアルだけでなく、作業の直前にやるべきことを連絡したことで、昨年度と比較してミスはほとんどなくなった。来年度以降も継続していきたい。
新学習指導要領の改訂に伴い、それに対応する学習評価方法を検証する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	昨年度の結果を踏まえ、評価方法を改善できた。来年度は大学側の評価の扱いを受けてあらためて検証していく。
進路指導課			
国公立大学への進路の実現を希望する生徒・保護者が多い現状を踏まえ、各学年と共同し、1年生には学習習慣の定着とより適正な文理選択を促し、2年生にはキャリアに繋がる学部学科研究を行う中で早い段階から受験意識の向上をはかる。	満足度指標 A：全学年 70%以上 B：全学年 60%以上 C：全学年 50%以上 D：全学年 50%未満	A	学校評価アンケートの「進学指導が充実している」の項目の3ヵ年推移では、1年生は66%→74%→ <u>76%</u> 、2年生は69%→76%→ <u>77%</u> 、3年生は79%→83%→ <u>85%</u> とすべて向上した結果となった。次年度も高水準を保持していきたい。
最終学年となる3年生に対して多様な入試制度を理解させた上で、指定校推薦においては評定だけに頼らない選考基準の導入も検討し、自らの第一志望にしっかりと向き合える進路指導の機会を提供していく。殊に国公立大学においては、再受験者あわせて110名以上の合格を目指す。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	上記のアンケート項目で、同学年過回として比較すると、2年次76%→ <u>3年次85%</u> へと大幅に上昇した。指定校推薦については、今年的大幅変更はしない方針にはなったものの、初期指導における注意喚起の徹底や英検の勧めなどで諸問題を解決できそうである。
新しい時代に対応できる技能や思考力、表現力を身につけ、国際社会で尽力できる人材に育つよう、土曜講座GSPをより幅広い学問分野で構成されたものに工夫し、土曜日に主体的に活動する意欲を高め、適正な進路選択や学力向上にも寄与する。今年度は特に、理系講座の充実を図りたい。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	昨年度は208講座開いたが、3学期を閉講した分、理系講座も充実させつつ、12月までの講座数を増やすことで、何の見劣りもなく195講座までラインナップできた。「GSP JOURNAL」が定着した。いかに生徒の興味関心を継続させるかが最大の課題である。
進路指導課主導の行事や発行物等において、生徒の学習到達度状況や最新の進学情報について正確に伝達・発信できる環境を整備し、教職員はもちろんのこと、生徒・保護者とも十分に共有しながら、ひいては進学実績の向上に繋げていく。	満足度指標 A：合計 70%以上 B：合計 60%以上 C：合計 50%以上 D：合計 50%未満	A	学校評価アンケートの「進学指導に必要な情報は、生徒・保護者に対し十分に提供されている」の項目において全体の満足度が58%→85%→ <u>86%</u> へと上昇した。今後は、宛先に生徒も含めることで、さらに意識を高めていきたい。
生徒指導課			
あいさつ運動を更に推進することにより生徒の自発的な挨拶を促し、教職員や外部の方々との爽やかな交流を通して、笑顔の溢れる学校生活の場を築く。	努力指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	アンケート結果による自己評価とは逆に、消極的な様子も多く見受けられ、かけられた挨拶にうなずく程度の生徒が少なからずいる。自発的な挨拶はいまだ難しく、個々の生徒があいさつをさらに自然とできるよう、まずは職員から積極的な挨拶を心がけたい。
通学マナーを向上させながら、地域に貢献できる指導を目指す。	努力指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	自転車通学者や公共交通機関を利用する生徒のマナーに関しての苦情がたびたびある。生徒の主観と客観には大きな隔りがあり、教室でも集団の一員としての振る舞いを指導していく必要がある。

具体的取り組み	評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
総務広報課			
<p>総務部門 学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないように、各学年、各課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。 *入学前オリエンテーション *入学式 *後援会総会 *保護者対象説明会 *保護者懇談会 *推薦入試・一般入試 *推薦専願合格者説明会 *卒業式 *入学説明会 *机・椅子の移動</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>	B	<p>コロナ禍が明け、通常通りの行事が戻った1年目である。早めの準備を心がけ、多くの先生方の協力もあり、無事に行事が実施できた。12月から翌年4月まで重要な行事が続くため、余裕を持って準備し、円滑に実施できるようにする。</p>
<p>広報部門 スローガン「GROW SEIRYO」を主軸に据え、本校の教育理念や教育実践を魅力的に発信していく。 1. 今では周知徹底されてきた感がある「ICT教育、土曜GSP、推薦入試、中高一貫理数コース」などをさらにどう魅力的にみせていくか模索する。 2. 「新たな健康習慣への取り組み」に対し、正確な情報発信をし、安心安全な学校像を後押しする。 3. 本校の長年の看板である「コース制や制服」なども、時代に合わせ変化をしつつあるのであれば、必要に応じてタイムリーに伝えていく。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>	B	<p>昨年度の反省申し送り事項を改善する形で、概ね業務を遂行することができた。一方で例年と同じという反復作業が油断につながった場面もあった。特に外部発信するものは、細心の注意を払い多数の目で確認するよう気をつける。また、新制服の導入や中高一貫校へのシフトチェンジなどの今後に控えている大きな変化を、どのように魅せながら生徒募集へと繋げていけるのか、後手に回らぬよう早めに情報を得ながら模索したい。</p>
特活課			
<p>生徒会活動および委員会活動において生徒の自主性・主体性を重んじ、活発に活動が行われるように支援する。</p>	<p>努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>	B	<p>新型コロナウイルス感染症が第5類へと移行し生徒会活動が活発に行えるようになった。前期生徒会では、体験型の企画であるポッチャ大会を行い40名を超える参加者が集まった。星稜知恵袋では各学年の垣根を越えて間接的に意見を交わし掲示した。後期は、広報誌「星徒会」の作成や卒業生への教職員からのメッセージをGROWTREEにまとめ展示した。各委員会もコロナ化で停滞していた活動が活発に行われつつある。</p>
<p>各部がそれぞれの目標を設定し、目標に向かって努力できる環境を整える。部活動加入率70%以上を目指し、文武両道の実現を図る。</p>	<p>成果指標 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	A	<p>今年度6月時点での部活動加入率は72.4%で、目標としていた70%を超える結果となった。新入生を対象に部活動のPRを効果的に行うと共に、各部が大会等の目標設定とプロセスを大切にすることで、より魅力的な活動となるように支援したい。</p>
<p>自己の健康課題について認識させ、個別の保健指導を実施する。視力・聴力および歯科検診の受診率向上を目指し、保健だよりにクラス毎の受診率を掲載する等、受診意識向上に繋げていく。</p>	<p>成果指標 A：50%以上 B：45%以上 C：40%以上 D：40%未満</p>	D	<p>各検診における要受診者の受診率は視力検査35%、聴力検査36%、歯科検診24%であった。これらの検診は受診に対して緊急度の意識が低く、通知を受けても後回しにするうちに未受診となる傾向がある。来年度は、受診の呼びかけに留まらず受診の必要性の理解に繋がるような保健指導を保健だより等を通して行っていく。</p>

情報システム課		
情報システムを安定して稼働させ、業務の効率化をさらに進める。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B Windows アップデートや、iPad アプリのアップデートがあるときに回線が混雑してしまうことがあった。法人のシステム統括課と連携し、通信の調整を行いシステムがダウンしてしまう状況には発展せず利用を続けることができた。今後も中高の校舎の回線の混雑状況を共有しながら、対応をしていく。
本校の情報資産を、機密性・完全性・可用性という情報セキュリティ 3 要素の確保を行うつつ正常に維持を行う。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A 日々のメンテナンスにより、問題なく情報セキュリティの 3 要素を確保することができた。今後も利用しやすい環境が維持できるように、運用していく。 ・機密性：アクセスを認められたものだけが情報にアクセスできる状態を確保すること ・完全性：情報が破壊・改ざん・消去されていない状態を確保すること ・可用性：情報を利用したいときにアクセスできる状態を確保すること
入試業務は情報共有によりチェック体制を整え、ミスの起こらないように業務を進めていく。また Web 出願に関しては日程等の確認を確実に実行運用していく。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B 入学検定料や、受験生の出身中学校コード番号の変更があり、出願開始前に設定変更がされていないことに気付かなかった。一部の保護者や事務にご迷惑をかけてしまった。年に 1 回の作業であるため戸惑うことが多いが、より慎重に確認作業を行う。
<p>《次年度における校務改善に向けて》</p> <p>時を守る。「試験を大切に」という心構えを伝えていき、タブレットの機能を用いて学習時間を教科別に計測し、学校がその経過を見守っています。試験の 2 週間前など筋目として特にその取り組みを生徒に強く意識してもらうために学校として全体に声をかけています。その意識が勉学の取り組みにつながり、教室全体を整えていきます。</p> <p>今後も、保護者アンケートや学校生活アンケートで、満足する評価が得られるように、各項目を検証し、コース制の特徴を生かしながらも、学校全体で取り組める教育活動を更に増やしていきます。</p> <p>各課の反省事項を次に活かし、生徒の学力向上と学校生活がより充実できる環境、そして先生方が意欲的に業務に取り組む環境を作り出していきます。</p>		